

## 令和7年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

**児童生徒一人ひとりの「自立と自己実現」に向けて教育実践するとともに、地域社会に対しても「多様性社会の実現」を推進できる学校**

\* その実現のために、《チーム光陽！つたえる・分かち合う・つながる》を合言葉に、以下の4点について連動させて取り組み、「好循環な学校」を作る。

- 1.【基礎】安全安心な校内体制構築の実現。～児童生徒の心身の健康と人権を守り、安全・安心に学べる学校～
- 2.【実践】質の高い授業実践の実現。～主体的な学びを大切に、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた質の高い授業実践ができる学校～
- 3.【組織】質の高い教員集団の実現。～学校組織として支援教育の専門性を高め、一人ひとりの教職員が学び続け、チームで協働できる学校～
- 4.【発信】多様性社会の推進と実現。～地域に開かれ、お互いの学びを発信し、すべての人が自分らしく生きていく社会の実現に向けて使命が発揮できる学校～

## 2 中期的目標

**1.【基礎】安全安心な校内体制構築の実現(安全安心力の向上)～児童生徒の心身の健康と人権を守り、安全・安心に学べる学校～**

- (1) 学校生活のあらゆる場面で「児童生徒・教職員の人権が尊重される学校」を実践・実現する。
- (2) 児童生徒の心身の健康を守り、児童生徒・保護者・教職員にとって、安全安心な校内体制と医療的ケア実施体制を構築する。
- (3) 学校における危機管理体制、防災対策を強化し、安心して学べる環境を整え、事故・事案の未然防止に努める。

**2.【実践】質の高い授業実践の実現(授業実践力の向上)～主体的な学びを大切に、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた授業実践ができる学校～**

- (1) 学習指導要領を踏まえた教育課程に基づき、主体的な学びを大切にした教育実践(観点別評価含む)をおこなう。  
\* 職員向け学校教育自己診断「児童一人ひとりの興味関心・適性に応じて、キャリア教育や進路に関する指導を行っている」において肯定的回答率について毎年2ポイントの向上を図り、令和7年度に【84%以上】令和8年度に【86%以上】、令和9年度に【88%】をめざす。【R5:78%、R6:82.3%】
- (2) 自立活動における専門性の向上を図る。肢体不自由や病気のある児童生徒の実態や特性に応じた自立活動を行う。

**3.【組織】質の高い教員集団の実現(組織力の向上)～学校組織として支援教育の専門性を高め、一人ひとりの教職員が学び続け、チームで協働できる学校～**

- (1) 全教職員のスキルアップ研修と次世代育成継承システム(OJT)を充実し、学校組織として支援教育の専門性を高める。
- (2) 教職員の働き方改革の推進、校務のスリム化を促進する。(校務の効率化、引継ぎシステム、労働衛生安全体制の充実)  
\* 職員向け学校教育自己診断における『仕事のスリム化を行う、仕事の時間を区切る、仕事の仕方を変える』ために工夫・改善に取り組んでいる」における肯定的回答率について、毎年2ポイントの向上を図り令和7年度に【70%以上】令和8年度に【72%以上】、令和9年度に【74%】をめざす。【R5:62%、R6:67.2%】

**4.【発信】多様性社会の推進と実現(発信力の向上)～地域に開かれ、お互いの学びを発信し、多様性社会の実現に使命が発揮できる学校～**

- (1) 「学校間交流」、「居住地校交流」等について進化・深化させ、SDGsの視点も取り入れながら、「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進を行う。
- (2) 「地域に開かれた学校作り」実現のため、保護者・地域住民・地域小中学校・関係機関との協働を推進し、併せて「支援教育のセンター的機能」を発揮する。
- (3) 「すべての人が自分らしく生きていく社会の実現」に向けて使命を発揮するため、児童生徒・教職員が光陽支援学校の取り組み・実践・自らの学びを積極的に発信する。  
・教職員は、自分たちの実践について「わかりやすく伝える力」を強化し、「研修会」「実践協議会」等の機会を積極的に活用し、校内外へ発信する。  
・児童生徒が「ポッチャ大会」「ロボットプログラミング選手権」「絵画コンクール」「スピーチコンテスト」等の機会を活用し、積極的に挑戦できるような組織として支援する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和7年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>令和7年11月25日～12月25日、Webフォームでアンケートを実施した。回答の回収率は、教職員は昨年度と変わらず100%だが、保護者については肢体不自由部門小学部50%[57%]、中学部66%[47%]、高等部49%[68%]、病弱部門小・中学部53%[16%]と今年度も全体の約半数の回答にとどまった。学校運営の改善のためには、より多くの保護者の評価及び意見が必要であることから、回収率の上昇は今後の課題である。</p> <p>本校は過去に生じた人権に係る事案を教訓に、学年会等において毎月、自身や同僚の言動について振り返り、改善に取り組んでいる。「学校は安全であり子どもは安心して学校生活を送れている」の保護者の肯定的回答率98.8%[97.4%]は、そういった教職員の取り組みと努力が高く評価された結果と受け取り、引き続き「人権が尊重される学校」の実現に努めていきたい。さらに、「ヒヤリハット等の報告が共有され、再発防止に活かされている」の教職員の肯定的回答率98.3%[95%]は、教職員が高い意識を持って安全・安心な校内体</p>	<p>第1回(令和7年6月30日)</p> <p>(1)校長より、めざす学校像(質の高い教育実践・多様性社会の実現)を軸に本年度の学校経営の重点を説明し、委員より次のような要望や助言を受けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な課題があるが子どもの実態に即して出来ることから取り組んでほしい。</li> <li>・「学び続ける教師」をめざす取り組みは素晴らしい。ぜひ推進してほしい。</li> <li>・自立活動の指導力向上を目標とする多くの教員の願いにどう応えるか、考えていかなければならない。研修の在り方などが課題になるのではないかと。</li> <li>・病弱部門のグランドデザインの作成に期待、出来ることがあれば協力したい。</li> <li>・地域の事業所として交流を深め、災害時の協力体制を共に考えていきたい。</li> </ul> <p>(2)肢体不自由部門のポッチャの取り組み、病弱部門の運動会の様子を動画と写真で紹介し、教育活動の一端を知っていただいた。</p>

制の構築に取り組んでいることの表れと評価できる。引き続き「安全・安心な学校」の実現をめざして尽力していきたい。

一方で「防災」に関する診断項目の肯定的回答率は、保護者 84.3% [92.2%]、教職員 91.7% [95%] といずれも低下している。次年度は課題を明確にし、専門家（防災士）の協力を得て検討することによって、防災に関する取り組みを前進させる。

「教育活動における ICT 機器の活用」及び「進路指導」に関する診断項目の肯定的回答については、保護者と教職員の間で評価の差異が生じている。ICT 機器は保護者 67.5% [84.5%]、教職員 90% [90%]、進路指導は保護者 89.2% [92.2%]、教職員 85.8% [82%] であり、この差異は問題視すべきである。併せて、「教職員は子どもの障がいについてよく理解している」の保護者の肯定的回答率が 92.8% [94.8%] と、やや低下したことも看過できない。従って、ICT 機器の活用を含めた自立活動の指導力の向上と、進路指導における専門性の構築が次年度からの課題であると考えられる。

働き方改革については、教職員の肯定的回答率は 75% と決して高いとは言えないものの、昨年度の 67% に比して上昇しており、ノー会議デイの設定や議事録の Web 化など、会議の持ち方の工夫と改善が評価結果に表れたのではないかと考える。しかし、否定的回答率は昨年度の 33% より減少して 22.5% であるものの依然として高い数値であることから、次年度も常に校務運営を見直して改善策を検討し、校務運営における ICT の利活用をさらに追求することによって、働き方改革に取り組みたい。

第 2 回（令和 7 年 12 月 8 日）

(1) 教頭より第 1 回授業アンケートについて報告。委員より、提出率の低さ（全体平均 43%）について指摘を受けた。今年度から Web フォームで実施したことが要因の一つと考えられるため、今後は紙媒体を併用し、教員がこまめに提出を呼びかけることによって、提出率の上昇を図っていくこととなった。

(2) 本年度採択の教科用図書について、教頭より報告した。

(3) 校長、首席、指導教諭より学校経営の進捗について報告した。委員からは、教師力と組織力の向上に引き続き尽力してほしい、との要望を受けた。また、防災に関する地域連携の在り方について、意見交換した。

第 3 回（令和 8 年 2 月 12 日）

(1) 教頭より第 2 回授業アンケートについて報告。PTA や教員が提出を呼びかけたことによって第 1 回よりも提出率が向上したことを委員から評価された。また、保護者の意見を受け止めて、さらに授業改善に努めるようにとの要望を受けた。

(2) 首席より学校教育自己診断の結果及び分析について報告。委員からは、現時点で好循環である取組みを維持し安定させ、今後、担当者が代わっても良い状態を保つよう努めることを要望された。

(3) 校長より令和 7 年度学校評価及び令和 8 年度学校経営計画について説明、承認を得た。令和 8 年度の中期的目標に挙げた「進路支援」が話題になり、高等部卒業後の豊かな生活の実現には、小学部段階から学校と事業所の密な連携が望ましいこと、また、これからは就学支援制度の改定に応じた大学進学を視野に入れた進路指導が求められること等、委員から様々な助言を受けた。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R6年度値]	自己評価
1 安全安心力の向上【安全安心な校内体制構築の実現】	(1) 人権尊重の教育推進	(1) <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒に使用する「ことば・行動」と同僚間で使用する「ことば・行動」の質を高める。</li> <li>学年会等を活用して、「ことば・行動」について振り返り、課題ケースは即時対応。好事例等をまとめて実践に活かす。</li> <li>教職員のいじめ等への認識を高め、予防(仲間づくり等)に係る実践を継続してさらに進める。</li> </ul>	(1) <ul style="list-style-type: none"> <li>全校研修1回で外部講師招聘。</li> <li>学年会等での振り返り、月1回</li> <li>好事例等のまとめ、学期に1回</li> <li>いじめ、仲間づくりに関する研修の実施1回。</li> </ul> <学校教育自己診断の関連項目で教員の肯定評価、人権:97%以上、いじめ:80%以上 [人権:肢 97.1%、病 93.3%、いじめ:肢 80.7%、病:80%]>	・12月25日に外部講師による人権研修を実施。相手の気持ちを尊重して関わることの大切さを再認識できた(○) ・月1回、各学年会で振り返りを行い、それを部主事が学期ごとに集約して共有した(○) ・2月職員会議において、いじめの定義及びいじめを確認した際の対応方法について、全教職員で研修した(○) ・学校教育自己診断 教員の肯定評価 人権 95.8%(△) いじめ 84.2%(○)
	(2) 心身の健康を守る教育の推進	(2) <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒のいつもと違う姿は、報告・連絡・相談の徹底。</li> <li>ヒヤリ・ハットを「ポジティブインシデント」としてとらえ、蓄積、共有する。重複して生起しているもの、重大事故につながりかねないものはポイントをしぼって朝礼などで共有する</li> <li>安全安心な医療的ケア実施のため、教育的意義や基礎知識の向上にむけた研修の実施、教員と看護師の協働実践をまとめた校内研修会(事例発表)を実施する。</li> <li>医療的ケアの体制変更に伴い、人工呼吸器使用児童生徒の対応マニュアルを必要に応じて改善する。</li> </ul>	(2) <ul style="list-style-type: none"> <li>ヒヤリ・ハットの報告件数 10件/月以上</li> <li>&lt;学校教育自己診断の関連項目 肯定的評価、高水準の維持。95%以上[94.9%]&gt;</li> <li>研修会の実施年2回(基礎研修1回、事例研修1回)</li> <li>教員と看護師の協働実践3事例を教職員研修として実施。</li> <li>医療的ケア安全委員会での検証、検討年3回。</li> </ul> <学校教育自己診断の関連項目 肯定的評価 75%以上[肢体:95.1% 病:56.3%]>	・ヒヤリハット報告件数は平均7件/月 学校教育自己診断 関連項目の教員の肯定評価 98.3%(○) ・7月24日 外部講師による研修において、医療的ケアの基礎知識及び児童生徒を想定した事例をワークショップ形式で受講した。この事例研修によって教員と看護師の協働を考えることにもなり、日々の協働実践の充実につなげることができた(○) ・人工呼吸器対応マニュアルについて、改善を要さなかったため実施せず ・学校教育自己診断 関連項目の教員の肯定評価 92.5%[肢体 98.1% 病 100%](○)
	(3) 危機管理体制の強化	(3) <ul style="list-style-type: none"> <li>関係分掌、委員会、運営委員会Bで以下について検討する。(防災プロジェクト)</li> <li>*避難計画・避難訓練の見直し、本部体制、指揮系統の改善</li> <li>*保護者への児童生徒の引継ぎ訓練の充実(参加しやすい日時、方法への変更)</li> <li>*休日、夜間等場面に応じた防災対応マニュアルの検討、作成。</li> <li>*災害時の医療的ケア体制について、課題を明確化し、検討に着手する</li> </ul> ・大災害に備え、旭区や地域自治会、分教室では病院と協力したりして、組織として準備する。分教室では病院との役割分担を明確化したマニュアル作成を検討する。 ・校内の安全点検を充実させ、危険箇所や備品の故障等への迅速な対応を継続して行う。	(3) <ul style="list-style-type: none"> <li>各種計画等への改善策の反映</li> <li>保護者への児童生徒の引継ぎ訓練を実施、1回。保護者自身の参加率 30%以上。[20%]</li> <li>休日、夜間対応マニュアルの完成。</li> <li>分教室でのマニュアル作成に着手できたか。</li> <li>医療的ケア安全委員会での検討1回/学期</li> </ul> <学校教育自己診断の教員の関連項目で肯定的評価 80%以上[肢体:97.1%、病:62.5%]> ・地域関係者との連携会議年2回、病棟関係者との連携会議2回 ・毎月安全点検の徹底、危険箇所の集約。 ・不要物品・備品等の把握と廃棄計画の作成(継続)。 <学校教育自己診断の教員の関連項目で肯定的評価 80%以上[肢 78.6%、病:87.5%]>	・避難訓練等について、見直し検討した上で実施した(○) ・引継ぎ訓練は方法等の再検討を要したため、教員のみで実施。本年度の訓練を踏まえて方法を改善し、次年度は保護者の協力を得て実施する(△) ・休日・夜間対応マニュアル、並びに災害時の医療的ケア体制については、十分に検討できなかった(△) ・学校教育自己診断 関連項目の教員の肯定評価 91.7%(○) ・地域関係者との防災に関する連携会議に3回出席し、災害時の対応方法や協力体制について検討した(○) ・病棟関係者との連携会議に2回出席。分教室の災害時対応は各病院のマニュアルの下で行うことを確認した(○) ・毎月の安全点検が定着し、緊急性のある箇所から対処することにより安全性を高めることができた(○) ・不要物品の廃棄計画を作成して実施し、校内整備を促進した(○) ・学校教育自己診断 関連項目の教員の肯定評価 93.3%(○)
2 授業実践力の向上【質の高い授業実践の実現】	(1) 個のニーズの実現	(1) <ul style="list-style-type: none"> <li>「光陽グランドデザイン」「キャリアプランニングマトリクス」をあらゆる場面で意識した教育を実践する。(グランドデザインと関連付けた授業づくり、キャリアプランマトリクスを意識した個別の教育支援計画の長期目標の策定等)</li> <li>R5から新様式として本校で活用してきた「個別の教育支援計画」のよさをいかして、新校務支援システム「賢者」へのスムーズな移行に取り組む。</li> </ul>	(1) <ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業時の学習指導案や授業略案などに「光陽グランドデザイン」やキャリアプランニングマトリクスとの関連付けを明記し実践し授業研究会で振り返りを行う。3回以上。</li> <li>&lt;学校教育自己診断の児童・生徒の関連項目で肯定的評価 40%以上[35%]&gt;</li> <li>R8年度からの本格移行にむけ、書式の整理、追加項目の検討等、移行データの準備ができたか。</li> </ul> <個別の教育支援計画、個別の指導計画の活用について、学校教育自己診断の教員の関連項目で肯定的評価 90%以上[肢:87.4%、病:93.8%]>	・キャリアプランニングマトリクスに基づいた振り返りを、学部研修会等において3回実施した(○) ・光陽グランドデザイン等と関連付けた指導略案の様式改定については、次年度の検討課題である(△) ・学校教育自己診断 関連項目の児童・生徒の肯定的評価 43%(○) ・本校の個別の教育支援計画様式の良さを活かすように努めながら、新校務支援システムへの移行を行った(○) ・学校教育自己診断 関連項目の教員の肯定評価 86.7%(△)
	(2) 質の高い授業実践	(2) <ul style="list-style-type: none"> <li>「教職員の授業参観週間」を充実させる。改善した授業参観シートを引き続き活用することで意見交換を促進する。</li> <li>授業「光陽いいとこ集め」を引き続き蓄積する。</li> <li>10年経験者研修等を活用した「公開研究授業」を実施し、モデルリーダーとしての授業改善を進める。</li> <li>質の高い授業作りのため、全校研修会で学び、授業改善につなげる。</li> <li>病弱教育における教科指導力をさらに高め、教科書改訂等に伴う必要書籍や研究書籍を確保し研究を進める(継続)</li> </ul>	(2) <ul style="list-style-type: none"> <li>授業参観週間1回の実施。(肢体不自由教育部門と病弱部門教員の実践交流含む)</li> <li>「光陽いいとこ集め」を継続し、首席や指導教諭から各学部会等にて共有。</li> <li>「公開研究授業」3回以上実施(現状維持)</li> </ul> ・教科研究会等への参加や原籍校等地域の学校の授業見学等の実施 3回以上 <学校教育自己診断の児童・生徒の関連項目で肯定的評価 80%以上[75%]、教員の関連項目 肯定的評価 90%以上[肢:92.2%、病:7.5%]>	・授業参観週間は、肢体不自由部門では学部ごとに日程を設定して実施(○) ・肢体不自由、病弱の両部門の実践交流は未実施(△) ・「光陽いいとこ集め」を首席が行って各学部会にて報告し、校内の授業実践を共有した(○) ・「公開研究授業」を3回実施した(○) ・小学校の授業公開に病弱部門の教員6名が参加し、授業改善に努めた(○) ・学校教育自己診断 関連項目の児童・生徒の肯定的評価 81.5%(○)教員の肯定的評価 92.5%(○)
	(3) 自立活動の充実	(3) <ul style="list-style-type: none"> <li>肢体不自由や病気のある児童生徒の実態や特性に応じた実践にむけ、自立活動に対する基礎知識を底上げするための手立てを引き続き検討する。</li> <li>実態把握、目標設定や評価の方法についての研修や、福祉医療人材によるPT、OT、STからの助言の活用を充実させる。</li> </ul>	(3) <ul style="list-style-type: none"> <li>校内研修2回以上、1回は外部講師による研修を行う。</li> <li>福祉医療人材として来校いただいているPT、OT、ST等から直接、本校の児童生徒を事例とした、全体研修を実施。1回。</li> </ul> <学校教育自己診断の関連項目で肯定的評価、教員、保護者ともに90%以上[教員:89.9%、保護者:94.8%]>	・7月23日 外部講師による、病気のある児童生徒に関する研修を実施。病弱教育の自立活動への理解を深めた。また12月と2月に「スパイダー報告会」を行い、自立活動の実践力の向上に努めた(○) ・9月2日に福祉医療人材のPTによる事例研修を実施。自立活動の指導における実践力の向上につなげた(○) ・自立活動の基礎知識の全校的な底上げについては次年度の課題である。 ・学校教育自己診断 関連項目の肯定評価 保護者 92.8%(○)教員 88.3%(△)

## 府立光陽支援学校

3 組織力の向上【質の高い教職員集団の実現】	(1) 教職員の専門性向上	(1) ・「光陽研修ライブラリ」システムのサイト活用を進める。各分掌等で活用方法を引き続き検討する。 ・国立特別支援教育総合研究所の「肢体不自由 ICT 活用」の研究協力校(R6～R7年度)として、指導・助言をうけながら実践研究をすすめる。	(1) ・実施した研修コンテンツはすべてライブラリにアップロードできたか。 ・4事例以上の実践、指導・助言をうけての改善、実践と、校内研修会等での改善内容の共有。	・全研修コンテンツを光陽研修ライブラリにアップロードした(○) ・12月22日に実施したICT研修において、国立特別支援教育総合研究所の研究者から受けた指導助言を報告し、校内で4例について共有した(○)
	(2) 引継システムの推進	(2) ・学校 ICT システムの更新にあわせて定めたルールに基づいた共有フォルダの整理を徹底する。 ・「光陽教材ライブラリ」のさらなる充実とシラバスとの関連付けた活用をさらに促進する。	(2) ・学校教育自己診断の教員の関連項目、肯定的評価、95%以上[89.1%]  ・学校教育自己診断の教員の肯定的評価、70%以上[68.1%]	・学校教育自己診断 関連項目の教員の肯定評価 78.3%(△)新校務支援システムに未確定な部分があったため全教職員の情報共有がスムーズにできなかった。  ・学校教育自己診断 関連項目の教員の肯定評価 64.2%(△)定期的なデータ整理等、使いやすい環境整備に引き続き努めていく。
	(3) 教職員働き方改革推進	(3) ・校務のスリム化、効率化について、引き続き運営委員会 B 等で検討する(継続)。 ・「光陽ふわり・ほっと」を活用して、教職員同士が互いに認め合いそれを共有することで、気持ちよく働きやすい環境づくりを行う ・組織として、移乗リフトの活用を継続し、「児童生徒」と「教職員」の両面から検証を続ける。	(3) ・各学部、年間を通し2項目以上、計画をたてて業務内容を簡素化・削減できたか。 ＜学校教育自己診断の教員の関連項目、肯定的評価、70%以上[67.2%]> ・ふわりほっと事例、年間 45 以上[2月までで 39] ・担当首席と安全衛生委員会で、整理、活用の集約を行う。学期に1回[年1回]	・議事録を web 上で閲覧、保護者宛て文書をデータ配信、と2項目について効率化した(○) ・学校教育自己診断 関連項目の教員の肯定評価 75%(○) ・ふわりほっと事例の収集 50 件(○) ・移乗リフトの活用を安全衛生委員会で学期に1回話し合った。形状の都合からトイレのベッドで使えない等、使用上の課題が明らかになった(○)
4 発信力の向上【多様性社会の推進と実現】	(1) 交流および共同学習の充実	(1) ・ 対面交流、オンライン交流を併用し、学校間交流、居住地校交流のさらなる充実をはかる。交流前に「出前授業」を行い、お互いの理解を深める。	(1) ・ 交流及び共同学習前の「出前授業」、学校間交流校、居住地校交流校で全て実施。20 回以上＊児童生徒の居住地校交流希望数により変動。[20回]  ＜学校教育自己診断の関連項目、肯定的評価保護者肢:90%以上(現状維持)病:30%以上、教員肢:90%以上(現状維持)病:85%以上[保護者肢:91.7%、病:30%、教員肢:94.2%、病86.6%]>	・交流校32校全てについて「出前授業」を実施した(○)  ・学校教育自己診断 関連項目の肯定評価 肢体不自由部門 保護者 93.7%(○)教員 95.1%(○) 病弱部門 保護者 35%(○)教員 82.3%(△)
	(2) 地域に開かれた学校作り、センター的機能の発揮	(2) ・「授業実践・教職員研修」について積極的に地域へ公開するとともに、コーディネーターによる地域支援も含めたセンター的機能を発揮する。 ・令和8年度の「光陽 GoGo フェスティバル」の開催にむけ、発信する本校の実践や取り組み内容の整理、設置ベースの再検討など運営を見直し、準備をすすめる。(令和7年度、大規模工事のため実施なし)	(2) ・「公開研修」を3本以上実施。 ＜教職員・保護者とも肯定的評価 80%以上。[教職員 83.2%、保護者 80.5%]>  ・運営を見直し、8年度の実施計画の概要を立案できたか。	・夏季休業期間に4本の公開研修を実施した。いずれの研修についても、参加者から好評を得た ・学校教育自己診断 関連項目の肯定評価 教職員 85.5% 保護者 95.5%(◎) ・令和8年度の開催に向けて「光陽 GoGo フェスティバル」を企画・立案した(○)
	(3) 実践や教育活動の積極的発信	(3) ・保護者、学校の取り組みを積極的に伝える。特に病弱教育部門の保護者に対して、参観の多い運動会や学習発表会等の機会を活用して、普段の様子の発信や、ブログを紹介する等をより意識して行う。 ・教職員は、自分たちの実践について「わかりやすく伝える力」を引き続き高め、「研修会」「実践協議会」等の機会を積極的に活用し、校内外へ発信する。 ・児童生徒が「ポッチャ大会」「ロボットプログラミング選手権」「絵画コンクール」「スピーチコンテスト」等の機会を活用し、積極的に挑戦できるよう組織として支援する。	(3) ・学校教育自己診断の保護者の関連項目、肯定的評価、肢:80%以上[81.9%] 病:45%以上[40%]  ・研究会等校内外で実践発信。学校(個人・グループ)から3実践は、校外へ発表。(維持)  ・大会等への出場、年間で5以上[5回/年](維持)	・学校教育自己診断 関連項目の肯定評価 肢体不自由部門 保護者 77.8%(△) 病弱部門 保護者 50%(○)  ・全国病弱虚弱教育連盟研究協議会等の研究会において4実践を発表。校内では ICT 実践交流会において4実践を発表し、発信力の向上に努めた(○)  ・肢体不自由部門はポッチャの試合に6回、病弱部門は絵画コンクール及びロボットプログラミング選手権に出場した。ポッチャ甲子園では全国でベスト4の成績を収め、絵画コンクールでは複数の児童生徒が表彰を受けた(◎)